

じゅしゅう

光寿無量

旧年中は記念法要など、様々なことで大変お世話になりました。

新しい一年のスタートとともに、新たな試みを始めたいと思っています。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

吉富山浄覚寺 寺族一同



第9号
(通算349号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350



十二月二十二日、十九回目となる浄覚寺子ども会冬のつどいを開催しました。

子どもたちは二十六名の参加、保護者やお手伝いの方を含めると五十人を超える参加者となりました。

お天気を心配しましたが、無事にお餅つきもでき、制作(粘土キヤンドル)やゲーム大会など、楽しい時間を過ごすことができました。

来年の夏には子ども会を始めて二十年目を迎えますが、十年前に埋めたタイムカプセルを取り出す予定をしております。終わったばかりですが、次が楽しみです。仕方ありません。



南無阿弥陀仏

無量寿如来に

帰命し

不可思議光に

南無したてまつる

帰依と敬順を

あらわす言葉なり

御文章に聞く(第7回)

仏教語辞典



阿闍梨餅

「阿闍梨餅本舗 満月」のお菓子。比叡山で修行する阿闍梨の網代笠をモチーフにしたもので、大正時代に二代目当主が考案。京都土産に、自分用にも◎。

http://www.a-jarimochoi.co

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤 誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

聖人一流章(五帖第十通)
その位を・一念發起入正定之聚と
も釈し、そのうえの称名念仏は・
如来わが往生を定めたまいし、御恩
報尽の念仏と・こころうべきなり、
あなかしこ あなかしこ

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。聖人一流章の後半部分です。まずは大意からお伝え致しますよう。「そのことを「一念發起入正定之聚」(信心と同時に法がなくなり往生成仏する身である「正定聚」とならせたいだけ」と釈されます。このように往生が定まった者にとって称名念仏は、往生を定めさせてくださった御恩報謝の念仏であると心得るべきです。前回にも少し書きましたが、親鸞聖

人がおられた時代の一般的な念仏の考え方は、数多く称えることによつて臨終に阿弥陀仏のお迎えをいただき、浄土に往生させていたどころと願う、というものでした。しかしそれではお念仏を称えるもの、お迎えがあつて往生できるか、できないかは臨終までは分からないというもので、実は不安なまま生きなければならぬ教えであつたと言わざるを得ないのです。親鸞聖人は不安なまま生きる自力の念仏ではなく、安心して生きられる他力の念仏があるとお勧めくださいました。蓮如上人も不安の原因は信心がないからだと言われ、「必ず往生させる」との如来の仰せを聞けば、聞くと同時に「必ず往生させていただけ」という世界が開かれていくとお伝えくださいます。それが「一念發起入正定之聚」ということです。

編集後記

今月も「じゅごう」をお届け致します。こども会が無事に終わり、今年の行事が全て終わりました。一生に一度の記念法要や台風により法要中止の判断など、初めてのことが数多くあつた一年でありました。こども会の記事で来年が二十周年と書きました。十年前のタイムカプセルを埋めたときに子どもたちに言いました。いつまでもここに御寺はあるから、いつでも帰ってきて欲しい。いつもあなたの幸せを願っているからと。浄覚寺を守っていく。私たちに課せられた使命です。皆さま協力ください。(釋法道)



仏教文化講演会
二月九日(日) 十四時より
講師 藤田翔一弁護士
内容 終活について
遺言、相続、お墓・お仏壇のことなど。
一緒に考えていきましょう。**参加費無料**

行事案内

日時・一月一日(祝) 十四時より
行事・元日会
法話・寺西覚水先生 本願寺派布教使(大阪)
(節談説教をお聴聞させていただきます)
場所・長原 浄覚寺
(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)